

■協働の定義について

一般に「協働」とは、複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいいます。協働の法的な定義はありません。まちづくりにおける協働のあり方については、さまざまな考え方がありますが、それぞれの自治体がそれぞれの形で定義しています。

■山口市の場合《山口市総合計画より》

市民と行政がまちづくりの目標を共有し、お互いの特性を発揮して、より良いものをもとに創りあげていく具体的な「行為や行動」のこと

■協働の2要素

《「協働社会をつくる条例」松下啓一著 より》

主体性・主体間関係

- 相互に自立し、自己責任を自覚
- それぞれが対等の関係にあること
- 互いの存在を尊重しあうこと

共司関係

- 共通課題の解決、社会的目的の実現
- 互いに連携・協力・協調すること
- より良い社会づくりに取り組むこと

一般には、協働というと共同活動にウエイトがかかって理解され、協働とは「行政とNPOが仲良くして行動すること」といった理解もされるが、こうした共同行動の前提として、双方が自立し対等で、責任と役割を自覚していることが重要である。

協働と同じ意味で使われる言葉にパートナーシップがある。パートナーシップを使うのは、たしかに共同行動は重要であるが、その前に水平的な主体間関係を確立することが重要で、あえてそれを強調しないと、行政の力が強く、市民の行政依存性が高い日本の現状においては、相互の協力・協調が容易に行政の下請けに転化してしまうと考えたためである。

協働もパートナーシップも、行政と市民・NPOとの自立・対等という主体間関係と、相互に協調・協力するという共同活動という二つの要素が重要で、その点を踏まえた上で、それを単に心がけの問題にとどめず、この二つの要素を具体化する仕組みづくりや実践が重要である。

W市 協働のまちづくり 市民会議



第9回

☆日 時☆

平成20年2月23日(土)
13:00~17:00

☆場 所☆

山口市役所第10・11会議室

☆テーマ☆

『条例素案づくり』⑤

条例の構成を検討する

☆本日のプログラム☆

- 13:00 スタート・前回の振り返り
プログラム説明
- 13:15 調整会議の報告
- 13:50 条例づくりのポイント
事務局より説明
- 14:00 グループワーク
 - 調整会議でまとめた素案を一人ひとりで読み込みます
 - 気づきを出し合い、素案の内容、構成をたいていきます
- 16:00 グループ発表
- 16:45 まとめ
- 16:55 次回について
- 17:00 終了 アンケート記入

自主的で活発な議論を期待しています！

※会議の進行状況を見て、プログラムを変更することがあります。

「住民自治」「協働」についての思いを出し合いました！

第8回の市民会議では、調整会議で見てきた課題をもとに、条例づくりの基本となる「住民自治」「市民の役割」「協働」などについて、じっくり検討しました。その内容をおおまかに掲載します。

終了後のアンケートをみても、住民自治のイメージや協働についてはまだ共有できていないと感じています。限られた時間ですが、これからもできるだけあいまいにしないで協議を重ねていきたいと思っています。

対等に向けては、主体が相互に尊重し合い、団体の自立・主体性の確立が必要。協働を考える上では本当に重要だが、現実にはまだまだ難しい。あえて踏み込むのであれば、気運の醸成から。

住民やコミュニティ組織、NPOや企業などの民間セクター等の多様な主体

協働については、まだまだ右往左往していますが、協働の目的は、住民自治の力を取り戻す、復活させることに考えています。

行政も考えを変える必要あり。市民側も対等であるために専門性に対応できる努力が必要。

市民会議が考える協働とは

さまざまな特性をもった主体が、相手の特性を理解し尊重して、**対等**な立場で、**共通の目的**に向かって責任と役割分担を明確にし、**共に汗を流して取り組む**こと（3班定義）

この場合は、市民、NPO、事業者などをすべて含めて広く捉える

共通の目的がぶれないように、見失わないことが大切

行政は委託元としてお金を出すだけではなく、課題解決に向けて共に汗を流すことが協働の大切なポイントでは？

共に汗を流す中で、お互いが成長する！

〈仮称〉山口市まちづくり基本条例の目的

この条例は、**市民**の参加と**協働**によるまちづくりを推進するための**基本的**な事項を定めるとともに、市民と行政の役割を明らかにし、ともに考え協力し、行動することにより、**個性豊か**で**活力**のある**自立した地域社会**の実現を図ることを目的とする。

それぞれの地域の特徴を活かし、大切にし、自主性や独自性があること

これからも永く暮らせる、もっと心豊かで住み良いまち。みんなが元気で持続可能なまち。

地域のことが一番よくわかっている市民が主役の地域社会。自ら気づき、考え、実践していく、創意工夫のプロセスが地域住民の生きがいや、満足感となり、地域のニーズや特性に合わせた、きめ細やかな公共サービスにつながる。出来ないところは行政などが補完していくしくみ。

シンプルで、なおかつ、動くしくみとして全体のバランスをみながら検討！

ここでいう地域は、特定した大きさではなく、班単位から自治会、旧市旧町、山口市全体の広がりを含める